



「きやべつの会」は京都市下京区・南区にお住いのがん患者さん、ご家族がお茶を飲みながら交流し生きる力を取り戻す「地域の患者サロン」(下京西部医師会主催)です

特別対談

コロナ禍における ホスピスケアを考える



永田 一洋

医療法人財団 康生会
武田病院 呼吸器センター
呼吸器内科 部長

土屋 宣之

医療法人財団 医道会
稲荷山武田病院 院長

前田 康秀

医療法人 前田クリニック
院長

コロナ禍による面会制限で在宅療養の希望が急増 理想のホスピスケアを病診が連携し追求

■永田 新型コロナウイルス感染症の拡大により、多くの病院で面会制限がなされています。なかでも、残された期間の少ない患者さんが過ごすホスピスへの影響は非常に大きいと思います。面会制限があることで「ホスピス入院を考えていたけれど在宅療養に切り替えたい」とのご相談はありますでしょうか。

■土屋 そうしたご相談は増えていきます。その場合は当院とかりつけの医師、訪問看護ステーション、ご家族が協力して患者さんを支える体制をつくりたいです。当院は専用のベッドを二床用意しており、かりつけ医師の要請に対応できるようにしています。コロナ禍におけるホスピスケアは、これまで以上に病診連携を密にしないと乗り切れないと感じています。

■永田 在宅でのホスピスケアは病診連携が機能してはじめて出来るということですね。

■土屋 そう思います。ところで私たちは、ホスピス病棟に早めに入院いただくことで患者さんやご家族が安心し、ゆっくりご静養いただけると考えていたのですが、これはある意味逆でした。容態が落ち着き安心できたので、出来るだけご自宅で頑張ろうとされる、看取りまでの短期間入院が増加することになりました。

■永田 容態が悪化してホスピスに入院されるものだと思っていたので驚きました。ホスピスに入院して症状を緩和し、その間にご自宅で過ごす準備も出来るということですね。

■土屋 そうです。なかには、ご自宅で看取りを行うためにご退院される方もおられます。

■永田 病室と異なりご自宅では親しい方との時間がとれます。「看取り前の準備としてのホスピス」は新しいあり方ですね。

■土屋 ただ、ご自宅に戻られてから不安を感じ、病院に戻るケースも少なくありません。在宅と病院の医療を比較されることが多いですが、これは比較してはいけないことと考えています。ご自宅で患者さんを囲む尊さを言葉を尽くして伝えていきます。そうして「これだけのことができた」との気持ちを持てるのが重要で、後にご家族が悲嘆にくれることが少なくなり、ご希望をできるだけ叶えようとするご自身が一つのケアになっているのです。

■前田 重みのある言葉だと感じます。病院で在宅の良さを伝えていただけるのは本当にありがたいですね。

■永田 ホスピスケアには決まった限界があるのではなく、時間をかけてご希望に沿おうとするところから最良のケアを導き出していくのです。本日はありがとうございました。

少しだけ勇気を出して 私たちに心の中の思いを聞かせてください

自分らしく生きるとは
どういうことでしょうか。

皆さんは日々自分らしく生きる
ことができているのでしょうか？

がんを患った患者さんや支えるご家族は、今ある苦痛症状・治療による苦痛・この先の不安による苦痛のために自分らしく生きることが困難な状況にあります。治療以外にも様々な問題を抱えて日々生活していかなければなりません。がんという病気を抱えながら自分らしく生きることの難しさは、健康な人にとっては理解し難いことかもしれません。

私たち化学療法室で働く看護師の役割は、安全・安楽に治療を完遂できるようサポートすることだけではありません。闘病生活での苦痛症状の緩和や不安などに対応したり助言

を行うこと、そして周囲と連携を取りながら少しでもその人らしく生きることができるようお手伝いしています。

ご自身の辛さを言葉にすることは勇気があることかもしれませんが、ただ言葉にすることで改善できることがあるかもしれません。少し勇気を持って心の中の思いを聞かせていただければありがたいです。困ったときには私たち看護師を頼ってください。



医療法人財団 康生会 武田病院
がん化学療法認定看護師
久世 有紀子



医療法人財団 康生会 武田病院
緩和ケア認定看護師
藤谷 薫



食事面でのサポートを行っています

康生会武田病院では、昨年から外来化学療法室で栄養指導を行っています。この栄養指導では、初回化学療法の際に「治療によって起こりやすい副作用」と「副作用に対する食事の工夫」を

ご説明しています。その後は患者さんから治療後の身体の変化や生活状況、食事内容をお聞きし、お一人おひとり

に合わせた栄養管理を行っています。

化学療法室の看護師や薬剤師とも情報を共有し、安心して治療が受けられるよう、食事面でのサポートをしております。

医療法人財団 康生会 武田病院
緩和ケアチーム
管理栄養士 松原 有紀



街の調剤薬局と連携し、より質の高い薬物療法につなげています

薬局には、街のいろいろな所にある「調剤薬局」と病院の中にある「病院薬局」があることをご存知でしょうか。病院薬局は入院中の方や外来で抗がん剤を使用する方へお薬の説明を行っています。また、当日や過去のデータをもとに医師と薬の相談をしたり、看護師やその他の医療スタッフと連携して治療に携わっています。

ただ病院薬局では、ご自宅での様子を把握することは患者さんのお話だけに頼りがちになってまいります。

そこで当院では調剤薬局と連携し、お互いの得意分野を生かした協力をすることで、より一層質の高い薬物療法の提供につなげています。

具体的には、当院から患者さんかかりつけの調剤薬局へ病院での治療詳細の情報提供し、調剤薬局はそれを参考にして患者さんの日常の体調変化を確認、そこで得た情報を病院へ提供して次回の外来治療に生かすというサイクルです。

幅広い連携でより良い医療提供ができるよう今後も努力を続けてまいります。お薬についてご不明点や質問などございましたら、いつでも薬剤師にご相談ください。

医療法人財団 康生会 武田病院
緩和ケアチーム
薬剤師 上本 恵三



LINE@でお友達になりませんか？

【友達登録には LINE アプリが必要です】

- ①スマートフォン等で QR コードを読み取って下さい。
- ②ID 検索 LINE アプリで「友だち追加」[ID 検索]で「@903NUYTA」を入力して下さい。



ID : @903NUYTA

発行：一般社団法人下京西部医師会

〒601-8452 京都市南区唐橋
堂ノ前町 15-9 エステート南ビル 301

☎ 075-693-3900 📠 075-693-3911